連載

あのマチ
このムラ

・地域おこし活躍中

No63

訓子府町の事例

―「活力あふれる、エコアグリタウン」を キャッチフレーズとした地域振興―

「町並み整備事業」による町並み

ふるさと祭りの遠景

農業が基盤のこのマチは、まちづくりのコンセプトとして「人にやさしい安心安全なまちづくり」を掲げ、先人の労苦に感謝し、その不屈の精神を受け継ぎ、町民一丸となって「豊かで住みよい町」「だれもが住み続けることができる町」を目指し日々努力を続けている。

今年、六月に降雹被害を被り、玉葱は打撃を受けたが、災害に負けまいと農家はたくましく営農を行っている。

頑張れ、訓子府町！

1．訓子府町のプロフィール

訓子府町は北海道東北部のオホーツク斜面の内陸寄りに位置

する。口の広いブランデーグラスのような形状をなし、東と北は北見市、西は置戸町、南は釧北山脈の稜線で津別町と十勝管内陸別町と境をなしている。

訓子府町は、周りを山に囲まれた盆地であり、盆地特有の内陸性気候で寒暖の差が大きく、平均気温は四度から五度、最暖日の平均は二〇度から二一度、最寒日の平均は零下八℃から九℃、年降水量は七〇〇㎜程度と少なく、全国でも有数の日照率が高い地域である。

訓子府町の名は、アイヌ語で「クンネプ」から転訛したもので「黒いところ、やち川にして水黒し」の意味から由来している。

明治二年に蝦夷地（えぞち）という呼び名を北海道とし、この地方は北見国常呂郡となり、明治三〇年に北光社移民団(注)の内一三戸が、オロムシ（現在の大谷地区）に入地したのが訓子府町の定住の始まりである。明治四四年に国鉄網走本線が開通し、訓子府駅が開業されると、辺境の地であった訓子府もにわかに活況を呈し始め、新しい農村への大きな躍進の時代を迎えることになった。大正四年、野付牛村に一級町村制が施行され、今の訓子府は置戸村の一部として分村独立し、さらに大正九年、置戸村から独立して訓子府村となり、開拓者の入地から二三年を経て年来の宿願が達成された。その後、昭和二六年十一月に町制を施行し、訓子府町となり現在に至っている。

平成二二年三月三一日現在の人口は、幼年人口（〇～一四歳）六七三人（構成比一二・一％）、生産年齢人口（一五～六四歳）三、一三三人（同五六・四％）、老齢人口（六五歳以上）一、七四七人（同三一・五％）総数五、五五三人であり、昭和四三年度末八、九七九人から約三割減となっている。

〔注〕

北光社とは坂本龍馬の甥にあたる坂本直寛（龍馬の長姉千鶴の二男で、兄権平の養子となり坂本家本家第五代目当主を継ぎ、まさに龍馬の蝦夷地開拓の志を継いだ人物）が創った開拓会社であり、その北光社が募った開拓移民団のことである。この入地した移民団のふるさとが現在の高知県高岡郡津野町であり、訓子府町と姉妹まちとして交流しているのである。

尚、北見市も北光社が開拓し、その縁で、同様に北見市と高知市が姉妹都市となっている。

2．訓子府町の産業

(1) 農　業

訓子府町の基幹産業である農業は、一戸当たりの平均経営面積は十八・三五haとオホーツク管内の平均規模を下回っているが、限られた面積の中で生産性の高い集約的な経営が展開されており、農業粗生産額においてはオホーツク管内一九市町村中六番目に位置する。玉葱・畑作三品（馬鈴しょ・小麦・てん菜）・酪農といった経営形態を基本としつつ、水稲、豆類、加工用スイートコーン、薬草、メロンをはじめ、栽培されている作物は多岐にわたる。特にメロンは訓子府町の気候の特徴である寒暖差の大きさ、日照率の高

さを活かし、特産物としており、訓子府町のカントリーサインとして採用されている。

昭和六二年「玉葱振興会」により、玉葱生産に使う農薬を減らすことはできないかという発想から低農薬栽培による生産が開始され、以降、玉葱以外にもじゃがいも、米などの特別栽培を実施するとともにそれらの各種団体、研究部会等が設立されてきた。平成八年これらを連携する訓子府町クリーン農業推進協議会が設立され、栽培技術講習会を開催したり、小学校の食育活動を行うなど町内に広く普及を図っている。

町内にある北見農業試験場が開発したじゃがいもの新品種スノーマーチは病害虫に強く、その形状から食用にも加工用にも向き、収穫後のあっさりした食味が越冬させると濃厚な食味になるという特性があり、このスノーマーチで焼酎まで作り、町の特産物として売り出そうとしている。

農家戸数は、平成二二年で三二八戸と減少傾向が続いており、後継者不足による離農や就農者の高齢化という課題を抱えているが、オホーツク管内の中では農家子弟の後継者に恵まれＪＡ青年部員数も一〇〇人を超えており、近年では他産業に従事したあと、実家に戻り経営を引き継ぐＵターンも見られるようになっている。

また、従来から土地改良事業に積極的に取り組んでおり、農業者個々の経営努力などもあり、平成二二年農業生産額では一二三億一、三一〇万円となっている。

玉葱畑の収穫風景

耕地面積（作付面積）

農協実態調査／（単位：ha）

年度	田	畑			合計	S50年対比	
		普通畑	飼料畑	小計		増加面積	比率
S50	431.00	2,944.00	1,747.00	4,691.00	5,122.00	0.00	1.00
60	354.00	4,041.00	1,735.00	5,776.00	6,130.00	1,008.00	1.20
H2	321.00	4,393.00	1,621.00	6,014.00	6,335.00	1,213.00	1.24
10	241.00	4,523.00	1,544.00	6,067.00	6,308.00	1,186.00	1.23
15	157.60	4,463.80	1,280.00	5,743.80	5,901.40	779.40	1.15
20	78.65	4,578.53	1,339.38	5,917.91	5,996.56	874.56	1.17
23	69.64	4,416.60	1,524.24	5,940.84	6,010.48	888.48	1.17

農産物の作付と生産額（H22年度）

農協地域農業生産高参考（単位：ha、千円）

項目		面積	粗生産額
水稲		74	68,167
小麦		846	244,552
豆類		74	72,273
馬鈴薯	種子	103	252,314
	食用・特別栽培・加工用	770	1,466,911
	小計	873	1,719,225
てん菜		951	488,405
薬草		12	27,391
野菜	玉葱	1,336	6,676,112
	加工スイートコーン	175	83,531
	メロン	10	74,132
	その他	223	109,627
	小計	1,744	6,943,402
合計		4,574	9,563,415

畜産物の生産量と生産額（22年度）

農協地域農業生産高参考（単位：千円）

項目		生産量	生産額
牛乳（乳量）	t	27,886	2,304,677
牛個体	頭	2,786	442,453
その他	頭	5	2,564
合計			2,749,694

※牛乳は補給金等含む

作物別平均反収（22年度）

農協地域農業生産高参考

作物名	10a当り収量（kg）	作物名	10a当り収量（kg）
水稲	498	豆類	256
小麦	507	スイートコーン	1,380
てん菜	5,100	玉葱	4,300
馬鈴薯（食用）	2,212	メロン	2,010

（以上、訓子府町「農業の概要（平成23年版）」より）

(2) 商業

訓子府町の商店数は昭和五七年の一三三店を最高に平成一九年では四七店に減少している。従業員数も昭和五七年の四二〇人を最高に、平成一九年では二八四人に減少しているが、従業員一人あたりの販売額では昭和五七年が二、五五九万円であったものが、平成一九年では三、〇二九万円となっている。近年は、大型店の出店が進んでいる隣接の北見市への消費流出の影響で、小売店を中心に厳しい環境に置かれている。こうした状況を受け、昨今は商工会が中心となり、プレミアム付き商品券の発行や住環境リフォーム奨励事業などの各種販売促進対策に取り組んでいる。

(3) 林　業

町の面積一九〇・八九㎢の四九・二九％が豊かな森林でおおわれており、そのうち三六・八％が人工林でカラマツが多く植えられている。森林面積に占める道有林は全体の六四・四％、私有林が二六・二％、町有林が九・一％となっている。（平成二〇年度現在）

(4) 鉱工業

町内の製造業の事務所数は平成二〇年で七ヵ所あり、食料品加工、土石製品加工などの地場資源活用型が主たるもので平成二〇年の製造出荷額は八四億五七〇万円となっている。従業員数については年々減少傾向を示しているが、製造出荷額は、平成一九年から増えており、企業個々の努力の成果と思われる。

3．訓子府町がめざすまちづくり

訓子府町は「活力あふれる、エコアグリタウン」をキャッチフレーズに、「豊かで住みよい町」、「だれもが住み続けることができる町」をめざして、各種多岐にわたる事業に取り組んでいる。

今年四月に二期目に入った菊池町長は、「町民が主役の元気で、やさしい、笑顔があふれる、住みよいまちづくり」をめざし、平成二三年度町政執行方針において七つの約束を掲げた。その一つ「安心して暮らせる『福祉優先の町』をつくる」とする中の高齢者対策を紹介する。

「生活弱者である高齢者が安心して生活でき、元気でますます活動の輪を広げられるよう、足の確保として『高齢者ハイヤー利用サービス事業』（七五歳以上町内一律基本料金五二〇円で利用可能）を実施する。また、継続して在宅介護の支援を行うとともに施設介護の充実を図り、安心して暮らしていける、夫婦が添い遂げられるまちづくりをめざす。」と町長は語った。

勉学あるいは仕事などのため町から巣立った人たちが、いつまでも我が故郷として愛着を持ち続け、それを寄付という形でまちづくりに参画する「ふるさとおもいやり寄付制度」（平成二〇年度設置、延べ五六名約五五〇万円の寄付実績）や、まちづくりに対する積極的な提案を受けるための「ふるさと応援団」（同じく平成二〇年度設置、東京、札幌など一三〇名の会員がいる）事業につながり、機会があれば戻りたいと想う町、そんなまちづくりを町民みんながめざし、暮らしているのが窺える。

4．訓子府町町内の主な活動

訓子府町と道内三大学（北海道大学・酪農学園大学・帯広畜産大学）が農業連携で協定を締結し、ＪＡきたみらい訓子府地区事務所に設置された北海道大学訓子府サテライトでは、大学から博士研究員が訓子府に常駐し地域の課題の収集と資源（新しいことに取り組んでいる人など）の発掘に取り組んでいる。

また、町内在住の農業青年と

女性計八名の有志で構成される「ビストロKUNNEPPU実行委員会」は、不定期に『ビストロKUNNEPPU』という一日限りのレストランを開催し、「料理を通して生産者と消費者が交流し、地元食材をPRする場」とする趣旨で活動している。

5．訓子府町のB級グルメ

訓子府町のいわゆるB級グルメといえるものにカツ丼が上げられる。カツ丼の種類ははるかに想像を超え、①卵で綴じたものが当たり前だと思う読者も多いだろうが、他に②ソースカツ丼「丼＋カツ」というカツ丼の元祖・ルーツで大正時代、洋食店で考案されたようである。丼飯の上に、ウスターソースをベースにトマトケチャップ、酒などを加えたソースをかけた豚カツをのせたもの。ソースに豚カツをくぐらせてのせたもの、豚カツの下にキャベツを敷き詰めたものもある。）、③たれカツ丼（新潟市の料理、薄手のとんかつを醤油ベースのタレに潜らせて、そのまま丼飯の上に乗せるシンプルな丼）、④煮込みソースカツ丼（卵とじカツ丼を割り下ではなくウスターソースで作ったもの）、⑤ドミカツ丼（岡山市の郷土料理。ドミグラスソースにくぐらせたカツをのせる。キャベツを敷き、グリーンピースや生卵をのせるのが特徴）、⑥味噌カツ丼（ご存知名古屋の八丁味噌で煮込んだカツをのせるもの）などなど、その他にも様々なバリエーションがある。

そして、訓子府町のカツ丼は、たれカツ丼ではあるが、新潟スタイルとは少し異なり、刻み海苔のかかったご飯にサクサクしたカツをのせ、醤油ベースのたれ（企業秘密）をかけたのが特徴である。

北海道は卵とじカツ丼が一般的であるが、不思議なことに訓子府町の近隣の町の人でさえも、卵とじカツ丼しか知らず、訓子府町のカツ丼の話を聞いてびっくりするほど、訓子府町オリジナルのおいしいたれカツ丼なのである。

訓子府町のたれカツ丼

訓子府町の住民、出身者は皆、胸をはって訓子府町のカツ丼を自慢している。

尚、訓子府町のカツ丼は町内の飲食店（呼び名、内容は各店様々）のほか、女満別空港のレストランなどでも食すことができる。是非、ご賞味あれ。

6．取材を終えて

訓子府町の農業の特徴として、後継者がいる、あるいは帰ってくる、離農跡地がない、特別栽培を行っている、収量が多いという点が上げられる。昔から青年団、4Hクラブなどの子弟教育活動を通してレベルの高い農民を養成してきた賜物であろうか。

㈳北海道地域農業研究所
特別研究員　西野義隆